

平成29年第2回小金井市教育委員会定例会議事日程

平成29年2月14日(火)

午後1時30分開会

開催日時	平成29年2月14日	開会 1時30分 閉会 2時32分	
場 所	小金井市役所第二庁舎 801会議室		
出席委員	教 育 長 山本 修司 教育長職務 代理者 鮎川志津子	委 員 福元 弘和 委 員 渡邊 恭秀 委 員 岡村理栄子	
欠席委員			
説明のため出席した者の職氏名	学校教育部長 川合 修 生涯学習部長 西田 剛 庶務課長 加藤 真一 学務課長 河田 京子 指導室長 小林 正隆 統括指導主事 高橋 良友 指導主事 丸山 智史	生涯学習課長 石原 弘一 図書館長 菊池 幸子 公民館長 前島 賢 庶務係長 平野 純也	
調 製			
傍聴者人数	1名		

日程	議 題	
第 1		会議録署名委員の指名
第 2	報 告 事 項	1 就学援助制度の認定基準の見直しについて 2 小金井市小・中学校連合作品展について 3 第 8 回中学生東京駅伝大会について 4 平成 2 8 年度小金井教育の日について 5 第 2 9 回多摩郷土誌フェアについ 6 第 1 3 回野川駅伝について 7 その他 8 今後の日程
第 3	議 案 第 3 号	校長・副校長の任命（転任・新任）に係る内申について

山本教育長

皆さん、こんにちは。

ただいまから平成29年第2回小金井市教育委員会定例会を開会する。

日程第1、会議録署名委員の指名。

本日の会議録署名委員は、福元委員と渡邊委員にお願いする。よろしくお願いする。

(委員一同異議なく、上記2名が選出された。)

山本教育長

今日は報告事項がたくさんあって、皆さんのご意見を多々伺う機会があるので、最初の一言は省略したいと思うので了解してほしい。

次に、日程第2、報告事項を議題とする。順次、担当から説明願う。

初めに、就学援助制度の認定基準の見直しについてをお願いする。

河田学務課長

それでは、就学援助制度の認定基準の見直しについて報告する。

制度を適正に運用するために、平成28年度から3年間かけて就学援助制度の見直しを進めているところである。今年度は、生活保護基準は引き続き平成25年4月1日の第68次基準を適用し、認定基準を収入の1.8倍から1.7倍とした。合わせて、入学時学用品費は1,000円増額し、小学校2万1,470円、中学校2万4,550円を支給した。また、この認定基準の変更で影響のあった対象者人数は54人であった。

資料をごらんいただきたい。資料1は小金井市就学援助支給要綱の一部を改正する要綱の新旧対照表である。資料2から4は基準を改正した場合のお知らせの案である。資料5をごらんいただきたい。この制度の変更の内容の案である。来年度については、生活保護基準が引き続き平成25年4月1日の第68次基準を適用し、認定基準を収入の1.7倍から1.6倍に変更することを考えている。合わせて入学時学用品費は今年度より更に1,000円増額し、小学校2万2,470円、中学校2万5,550円とすることを考えている。

この見直しによっての影響の試算である。平成28年度、今年度の認定状況から試算すると、認定倍率を収入の1.7倍から1.6倍

にすることにより62人の方に影響が出る見込みである。今後のスケジュールとしては、本日の教育委員会定例会でご意見を伺い、その後、検討の上決定して、さらに3月の教育委員会で報告をする予定である。現在、特に入学時学用品費の金額については、国の補助金のほうの予算の動きもあるように聞いている。こちらのほうも踏まえて慎重に検討させていただきたいと思っている。

報告は以上である。

山本教育長           この件については、昨年度も報告をさせていただき、3年間かけて順次切り下げていくという話をさせていただいたけれども、ご質問、ご意見等があれば伺いたいと思う。いかがか。

鮎川教育長           何点か確認と質問をさせていただきたいと思う。  
職務代理者           まず、生活保護基準に関しては、昨年と同様に引き下げ前の第68次の基準を使用するという理解で間違っていないか。

河田学務課長       はい、そのとおりである。

鮎川教育長           認定倍率をこのたび1.7倍から1.6倍に変更ということで、段階的変更については昨年度のこの時期にも既にご説明をいただいて、理解している。現在の1.7倍は、26市の中でも全国的にも大変高いレベルである。1.6倍にした場合でも、26市の中で、高いと思うが、大体何番目ぐらいになるか教えてほしい。

河田学務課長       認定倍率を1.6倍にした場合だが、26市では1.6倍以上の市が2市あるので、小金井市は3番目となると思う。  
また、全国でも公表されている26年度の資料から見て1.7倍で8位ということだったのだが、1.6倍になったとしても10位程度のレベルには入っているという状況である。

鮎川教育長           わかった。  
職務代理者           引き下げというと、悪いイメージが先行してしまうが、1.6倍でも26市の中でも3番目に高いということだね。ありがとう。

山本教育長           そのほかいかがか。

福元委員 見直しをした影響というのがいろいろ考えられると思うが、教育委員会や学校への相談はどれくらいの件数あったのか。

河田学務課長 先ほども説明の中で申し上げたが、今年度については54の方に影響があった。通常の間い合わせというのは例年何件かあるが、今回、改めて受給できなかった方についてご相談とかそういうものは教育委員会の方へは特にはなかった。学校のほうにも改めて調査をしてみたけれども、特にこの見直しに関しての就学援助に関する相談やクレームなど、ご相談については特にはなかったというふうに聞いている。

福元委員 要望だけではなくて、相談もなかったということか。

河田学務課長 はい。

福元委員 わかった。

山本教育長 ここでちょっと確認だが、54の方に影響があったわけだが、全体何人いたかということを確認しないか。何人ぐらいでもいいけれども。

河田学務課長 今年度の、全体の認定状況ということでよろしいか。

山本教育長 はい。すぐ出なければ、後で正確な数字を教えてくださいてもよろしいか。

河田学務課長 わかりました。申しわけない。ちょっと資料がすぐに。

山本教育長 じゃ、正確な数字は後で。おそらく1割にも満たない数だとは思いますが、ただ、昨年度も皆さんからご意見を伺ったり、非常に我々としても心苦しい問題なので、丁寧に対応していきたいと思っている。

そのほかに、ご意見、ご要望等あるか。ご質問等、この件について。

岡村委員

現在のニーズという点で、先日、朝日新聞を見たら、板橋区は就学援助が全体の4割ということであった。小金井市では就学援助受けたのは全就学児童に対し何割ぐらいかも教えていただけたらと思う。よろしく願います。

あと、この同じ朝日新聞に、入学準備金を入学前に早めにいただきたいという小金井市の方の声が上がっていたが、入学前の給付を検討しているかということをお教えしてほしい。困っている人は一時的にも学用品費を先に立てかえて払うことができなくて、支給まで待って、なかなか買えないという人がいると思って、困っている人がいると思うが、小金井はどういうふうにお考えか。

河田学務課長

26市では1市が今年度より入学準備金を前年度に支給するというふうなことを聞いている。担当の課長会でもいつも議題となっており、再来年度からの実施を検討している市は幾つかあるということも伺っている。

まずは先行市の状況や課題などを伺いながら、本市でいつからどのように実施できるのかというところを考えてみたいと思っているところである。

予算的な部分で、今、想定されているのが、前倒しで支給することで、初年度に2年分の入学時学用品費の費用がかかること、それからシステムを使って運用しているので、そちらのシステムの改修費なども、やはりちょっと100万円単位でかかってしまうというふうなことは予想されている。

運用の課題としては、小学校1年生につきまして、入学前に認定するためにスケジュール等が、まだ入学の前であるので、いつ申請していただくかとか、お知らせをどのようにするかとか、そういうところのスケジュールのために可能であるかどうか、また、実際3月まで小金井市にいたけれども、4月に転出してしまった場合、返還を求めるのかどうかとか、そういうところも運用の課題となっているので、そういうところも研究して、前向きに検討していきたいというふうに考えている。

それで、ちょっと人数のほうははっきり出なくて申しわけないけれども、27年度決算で小金井市の就学援助の認定率、要保護のほうは小・中学校合わせて9.5%、準要保護が13.18%というよ

うな数字になっている。なので、こちらの認定者の人数についても、27年度決算で大変申しわけないけれども、要保護のほうが49人、準要保護が773人というふうな受給をしているという人数になる。

山本教育長            ということです。

岡村委員             わかりました。

山本教育長           ほかに。

鮎川教育長  
職務代理者            入学準備金のご質問が岡村先生から出たところ、それに絡めて1点質問をしてよいか。先ほど学務課長の最初のご説明でも少し触れられていたが、入学準備金について、文部科学省から目安が出されている。それが来年度、変更になった場合、小金井市でもお考えがあれば教えていただけるか。

河田学務課長        国の補助金の制度が、補助単価が変更になった場合、小金井市としてどんなように運用していくかについては、あるべき姿を探りながら、予算の面もあるので、市のほうに相談させていただき、よい方向にできるように検討してまいりたいと思っている。

鮎川教育長  
職務代理者            わかりました。予算があるので、いろいろ難しい点もあるかと思うが、よろしく願います。

山本教育長            そのほか、ご意見。

岡村委員             NHKでも子どもの貧困について取り上げたり、各種新聞とかもいろいろ隠れ貧困というか、総体的貧困、なかなか食べられないとかそういうことじゃなくて、普通の生活が、普通の人が当たり前に行っているランドセルを買ったりとか、そういうことができないような経済的貧困という家庭、生活することが難しいような家庭がだんだん増えてきたということを取り上げており、社会全体で子どもの貧困に取り組むことが課題になっていると思うんだけど、その点で、小金井市のこれからの方向性はどういうふうにお考えになるか。

河田学務課長　　子どもの貧困については、全国的な調査などでも6人に1人となっているのは、皆様ご周知のとおりである。今、就学援助制度の基準の見直しをしているところであるが、来年度の1.6倍というレベルでも全国で10位程度というところで、決して充実していないということではないのかなというふうに思っている。

子どもの貧困対策については、就学援助制度だけではなくて、市長部局との連携が十分必要である課題だと思っている。市議会などでも、このことについては何回か話題になっているが、市長のほうからも、こちらの就学援助の見直しによって生み出された財源については、就学援助制度、また子どもや教育の分野にしっかり活用したいというふうな旨のご答弁もいただいている。

ほんとうに必要な世帯に手厚く支援していくことを考えていく必要があるということは、こちらの担当課としても十分意識している。

岡村委員　　そうだね、必要な人に手厚くしてと、このお金だけじゃなくて、ほかの分野でも一緒に援助して行って、お金の割り振りを考えるという中の一つの方針だと考えればいいんだね。

山本教育長　　その件については、奨学金についても、小金井市はほかの市で廃止したり減額したりしているのが多い中で、大学生では完全給付型というのは26市の中では小金井市だけだし、高校生に対しても維持しているので、岡村委員がおっしゃったようなことについては、こちらのほうも一生懸命考えて対応している、そういう自治体であるという気持ちは、私も持っている。

ほかにあるか。

渡邊委員　　制度自体の周知は十分になされているのか。既にご存じだと思うけれども、ソーシャルワーカーの方など、制度の説明をする機会を設けられてはいかがか。

河田学務課長　　就学援助の制度の周知については、例年、入学説明会でのお知らせの配付、また、4月には全世帯にお知らせと申請書を配っている。今、委員のほうから新たなご提案をいただいた、スクールソーシャ



ルワーカーの方は常にいろいろな制度をご存じだとは思いますが、打ち合わせなどは定期的に行われているというように聞いてるので、ちょっと指導室のほうとも相談して、時間をとっていただき、来年度にはそのようなことも、ぜひ前向きに考えていきたいと思っている。

山本教育長 よろしいか。そのほか、あるか。よろしいか。  
それでは、次に、小金井市立小・中学校連合作品展について。

小林指導室長 平成28年度小金井市小・中学校連合作品展について報告をする。  
平成29年1月20日金曜日から1月24日火曜日まで、小金井宮地楽器ホール1階小ホールと地下1階、市民ギャラリーにおいて開催した。

児童・生徒の日ごろの学習成果の発表や鑑賞を通して、創造活動の能力を伸ばすとともに、広く市民や保護者に教育活動への理解を深める機会とすることができた。

出展作品数は、小金井市立小・中学校、東京学芸大学附属小金井小・中学校の作品を含めて1,492点である。小学校の作品は、ランプや針金工作、紙粘土での工作、切り絵や木版画など素材の特徴を生かした作品が多く、多彩であった。中学生の作品は、多色刷りの版画や鉛筆デッサン、木彫りや時計、張り子のお面、テーマに基づき創意工夫された絵画作品など、本年度も各学校独自の作品が掲示されていた。

小・中学生のどの作品も、児童・生徒のアイデアや材料の素材を生かした表現力豊かな作品ばかりであった。来場者が児童・生徒の工夫を凝らした作品に驚かれ、感心したりしながら熱心に見入っており、細かいところまでよく書かれていて完成度が高く、本物を超えるレベルの作品があり感動した。色遣いや材料の選び方もとても繊細な作品が多く、制作者、子どもの心の温かさが伝わってきた、来年も楽しみにしているなど、多数の感想をいただいた。

報告は以上である。

山本教育長 これはごらんになった委員の感想を伺おうか。

福元委員 この連合作品展は、例年そうだが、今年も多くの方に温かく見て

もらっているのを感じた。どの方も一緒に来た人と話をしながら作品の良いところを見つけて褒めている姿が印象的だった。そういう様子を見ていて、小金井の学校教育そのものが評価されているのを感じた。

それともう一つ、ああ、いいなと思ったのは、小さな子どもが親に向かって、僕も中学生になったらこんなのできるかなと一生懸命聞いていた。ここにも一つ、この連合作品展をやる意味があるなと、思った。改めていい作品展だったなと思っている。

以上である。

山本教育長           ほかにいかがか。

鮎川教育長  
職務代理者           毎年、完成度が高い作品展で、福元先生がおっしゃったように、多くの方がごらんになっている。学校の展覧会も大変すばらしいのだが、学校を超えて小さなお子様から、おじい様、おばあ様方まで、いろいろな年代の方が、多くのすばらしい作品をごらんになってくださるとい、すばらしい機会が小金井市にはあって、いいと毎年感じている。どうもありがとう。

山本教育長           準備から運営まで、指導室が担当しているが、どうもお疲れさまでした。一つ質問だが、小金井市立とうたっているのだが、学芸大学が入っているのは、これはどういうわけなのか。

市内には私立が3つぐらいあるね。それが、学芸大学だけがここに加わっているのはなぜなんだろうという、素朴な疑問なんだが。作品展に入っていたよね、学芸大。だけれども、武蔵野東中学とか、東京電気中学とか入っていないね。だから、何でなんだろうと思った、素朴な疑問で。

小林指導室長       今後検討して。

山本教育長           いやいや、やれと言っているんじゃない。制度上、どういうふうになっているんだろうと思ったので。

岡村委員           公立か。国公立。

小林指導室長 公立ではないと思う。

山本教育長 わかった。すまない、さっきから答えの出にくい質問ばかりして申しわけない。

それでは、次、第8回中学生東京駅伝大会についてお願いします。

小林指導室長 第8回中学生東京駅伝大会の結果についてご報告させていただく。平成29年2月5日の日曜日に、味の素スタジアムで第8回中学生東京駅伝大会が開催された。当日は午前中に女子の競技、午後に男子の競技が行われた。競技では、小金井市の代表選手1人1人が全力で走り抜き、チームのたすきを最後までつなぐことができた。

競技の結果だが、男子チームは50チーム中35位、女子チームは49位、総合44位だった。当日に向け、選手たちは記録会や練習会を重ねてまいった。NPO法人黄金井倶楽部の協力により、元箱根駅伝出場選手、現法政大学陸上部指導者の成田道彦先生の指導を受けることや、市内公立、国立の陸上部活動顧問、体育担当教諭の指導により、一生懸命練習に取り組んで本番に臨んだ。

今後は、中学生東京駅伝大会を一つの転機として、小金井市の子どもたちのさらなる体力向上を図ってまいる。

報告は以上である。

山本教育長 これも感想があれば、どなたでも、いかがか。

渡邊委員 女子のほうは非常に頑張ったんだが、ああいう成績になったのだけど、特に最後にスタートした人は、同時ぐらいにスタートしたんだよね。ただ、終わってゴールに近づいたら、半周ぐらいリードしていたので、個人のレベルで考えると非常に頑張ったんじゃないかとほんとうに思うので。そういったタイムも、全体も大事だが、個人の記録も残してあげると、頑張ったような、努力賞みたいなものがあるかもしれないと思う。総合的には44位だったので、よかったかなと思う。

また、始まる前に話を聞いたんだが、例えばサッカーだとかほかのサークルに所属していて、駅伝とぶつかってしまうとサークルのほうに優先になってしまう選手が多かったらしい。だから、ベストメンバーかどうか、ちょっとわからないけれども、できたら年に1

回なので、駅伝のほうを優先にさせていただくような選手に出てもらうといいのかなと思ったけど。

以上である。

山本教育長

ありがとう。

ほかにあるか。それでは、これも大きな行事で、担当者は毎年準備等大変だが、よろしく願います。

それでは、4番、平成28年度小金井教育の日について、指導室長願います。

小林指導室長

平成28年度小金井教育の日についてご報告する。平成29年2月8日、水曜日、小金井第一小学校体育館において小金井教育の日を教育委員会と小金井市教育研究会、PTA連合会の共催で開催した。

小金井教育の日は、学校、保護者、地域の方々が個々に小金井の教育について考えることを通して、学校の教育活動の一層の推進を図ることを目的としている。

第1部は、小金井市教育研究会の発表として、中学校理科部と小・中合同特別支援教育部が本年度取り組んできた研究について、それぞれの特性を踏まえた発表となった。中学校理科部では、生徒が物事の事象をわかりやすく理解するために、例えば植物の蒸散作用を観察しやすくするなど、開発した実験器具を中心に発表した。特別支援教育部では、生活面、情緒面、学習面における指導に視覚から読み取れる掲示物や資料提示の部分について発表した。

第2部は、市内の中学校生徒会の意見交流を行った。意見交流のテーマはSNSの利用によるトラブルとその対処法について考えるである。合計で33名の生徒が壇上に上がり、SNSに書き込む際には書き込んだ内容をもう一度見直す。第三者が見て不愉快な内容にしないなど、市内の中学校を代表して意見を発表する姿が見られた。

第3部は、僕、学習障害と生きています、気づきから理解へというテーマで明蓬館高等学校共有コーディネーター南雲明彦先生による講演会を行った。講演会では講師の先生の経験談をもとに学習障害の一つであるディスレクシア、読み書き障害についての理解を深めることができた。

小金井教育の日の開催は、学校と保護者、地域が子どもたちを取り巻く現状や課題をお互いに理解し合い、これからの小金井の教育についての意識を一層高めるための貴重な機会となった。

報告は以上である。

山本教育長           ご質問、ご意見等があればお願いします。

鮎川教育長  
職務代理者           小金井教育の日は市教研と生徒会、そしてPTA連合会共催という中身の濃い充実した企画であったと思う。ほんとうにありがとう。

1部、2部、3部全てすばらしかったのだが、特に小金井の子どもたちの生徒会での討論会、意見交換はとても質が高く、子どもたちの高い意識を拝見できてよかったと思う。

そして、山本教育長の最後の試金石と思えるような投げかけに対し、普通のお子様だったら困るような場面であったが、小金井の中学校の生徒会のお子様方はとても立派で、きちんと自分の意見を持ち、最後には自分の意見を手を挙げて発言するという、大人の私もまねができないようなすばらしい内容であったと思います、感銘した。どうもありがとう。

山本教育長           では、私も一つ意見なのだが、あのとき、最後に私が発言させてもらったように、非常に模範的な生徒たちが立派な発言をしたのだが、内容については自分たちの意見、こうあるべきだという、そういう内容にとどまっていたので、ぜひ来年は、テーマは同じでいいから、SNSについてうちの学校ではこういう生々しい状況がある、問題点があるよと、それを全生徒にアンケートをとって実態調査をさせて、その解決のために生徒会を中心にして、こういう取り組みをして成果が上がったというのを5校で出していただければ、5校の生徒会が優れたやり方、活動を共有化できると思う。

そういう形で一步前進してもらったらいいかなと思ったので、参考までに。ただ担当指導主事が大変なのはよくわかっているので、あんまり言えないけれども、どうせやるからには、年に1回の指導主事がやる授業だと思って、さらに工夫をしていただければなと思った。

ただ、今、鮎川委員がおっしゃったように、ほんとうに小金井の子どもたちが立派で賢いということがよくわかったので、大変うれ

しく思った。

それでは、第29回多摩郷土誌フェアについてお願いします。

石原生涯  
学習課長

それでは、多摩地区の27の市と町が参加して行われた郷土誌フェアについてご報告をする。開催期間は1月21日の土曜日と22日の日曜日の2日間であって、会場は例年と同じく立川駅北口にある女性総合センターアイムで開催をした。入場者数は2日間通して463名と、去年は551名だったので、88名程度ちょっと入場者数のほうは減っているような状況である。

それから、小金井市においては、小金井市で発刊している郷土誌資料を一堂に展示して販売も行ったところであり、一番多くの方々にお買い上げいただいたのは、100円ということで手に取りやすい小金井市の歴史散歩が21冊お買い求めいただけた。

簡単だが、報告は以上である。

山本教育長

ご質問等あるか。よろしいか。

それでは、6、第13回野川駅伝について。

石原生涯  
学習課長

それでは、野川駅伝大会についてご報告を申し上げる。1月15日の日曜日、午前8時30分から午後2時まで、教育委員会の皆様方におかれては、朝の開会式から閉会式まで屋外での大会にもかかわらず、1日ご参加いただき、誠にありがとう。

今回は、登録されたチーム数が146チームということで、前回の139チームを上回って、過去最高の登録チーム数であった。ただ、ちょっと参加の基準などを厳しくした関係で、参加の選手数は、前回は971名だったのが、今回954名ということで、登録チーム数が増えたにもかかわらず、選手数のほうは減っている状況であった。

役員についても、ボランティアの方々を中心に954名の選手を支えるために161名の役員の方々が大会をサポートして、非常にたくさん保護者やお友だちなどの参加も多くて、これだけたくさん並んでいるのを見たことがないぐらいの自転車の数が、来場者からあったので、そういった整理なども非常に大変だったのかなというふうに思っている。

簡単だが、報告は以上である。

山本教育長           ご意見等、ご質問等あるか。

岡村委員           とても寒かったんだが、とても爽やかな会だった気がする。閉会式とか表彰でも、選手たちがみんなびしっとしていて、とても司会の方がよかったのかわからないけど、ほんとうに爽やかな大会で、また来年も行きたいな、大勢の人が参加してスポーツを楽しんでいただいたらいいなと思った。

山本教育長           じゃ、私からも一つ、要望というか。最後にミカンを配った。あれ、よかった。八百屋さんの提供で。あれをもっと拡大して行って、宣伝になるからといえはいろいろな商店の方が提供してくれれば、もっともっと盛り上がっていくんじゃないかなと思う。小金井市の一つの大きなお祭りのようになっているので、どんどん商品を増やして行ってほしいと思った。別に法律上、問題ないでしょう。あるか、何か。大量のミカンが提供されたけど。

石原生涯  
学習課長           結構、黄金井倶楽部さんが中心になって企画していただいているが、いろいろなスポンサーというか、そういう方々の力も随分活用してやっていらっしゃるので、いろいろな商品ということでちょっとミカンが取り上げられたけれども、FC東京さんなどもタオルとかそういうものを提供していただいたりしているので、魅力的な商品をふやしていきたい。

山本教育長           計画の段階で宣伝してもらって。

それでは、次に、その他、学校教育部から報告願う。まず、給食費について。

河田学務課長       それでは、学校給食費の改定の検討状況についてご報告をさせていただきます。昨年の11月22日開催の教育委員会では、学校給食費の改定案とアンケートの結果についてご報告したところである。現在、平成29年4月から給食費改定に向けて、26市の状況を調査している。

今後のスケジュールとしては、26市の調査の結果も合わせて、再度確認の上、決定をして教育委員会のほうにも、また委員の方に

も報告をさせていただきたいと思っている。3月中には校長会のほうに検討の結果を伝えて、また、学校を通じて保護者にお知らせをする予定である。

以上である。

山本教育長           これもまた、先ほどの問題と同じで、いろいろなご意見が出てくるかと思うけれども。前回に続いての報告であるが、ご質問等あるか。

鮎川教育長  
職務代理者           学校給食費は、学校の私費会計なので、どこまで委員の私が意見を申し上げてよいか、難しいところである。前回、案とアンケートの結果をご説明いただいて、まだ途中の段階とは思いますが、実際の改定される金額の見通しや、金額についての根拠について現段階でおわかりになる範囲で教えていただけるか。

河田学務課長       改定金額については、11月にお示ししたとおりの、当初の案のとおりを考えている。理由は、こちらのほうは校長会のほうで、給食で必要な栄養量というのを、モデル献立による必要な金額ということで試算をして決めているものなので、逆にこちらについて、また金額のほうを調整するというふうなものではないかなというところである。

実際に試算している細かい表なども、私たちのほうも拝見させていただいており、毎日の給食、いろいろなメニューがあるので、その日によって1食の必要な単価が全く同じというわけではないが、でこぼこはあるけれども、一応やはり試算をされたものというところで、そちらのほうの金額については必要な金額ということで尊重していきたいというふうに、今のところは思っている。

鮎川教育長  
職務代理者           わかった。ありがとう。

山本教育長           まだ最終結論というわけではないので、今のような方向で、事務局のほうで検討していくということだね。

鮎川教育長           わかった。



職務代理者

山本教育長

よろしいか。

それでは、学校事務の共同実施について、これも前回に引き続いでの報告である。

小林指導室長

学校事務の共同実施について、設置計画と拠点校、連携校のグループ構成について報告をする。資料の1番、実施に向けての設置計画である。本年度西部地区の拠点校工事を終え、平成29年度及び平成30年度で4校4人体制の試行を行う。試行については、OA機器等の環境整備を含め、準備をより丁寧に進めるために、東京都教育委員会と協議の上、当初計画より1年延伸した。平成31年度、西部地区本格実施、東部地区については拠点校工事に続いて、平成32年度東部地区本格実施とする。

資料2、拠点校及び連携校についてである。西部地区は小金井二小を拠点校とし、提携校を小金井一小、小金井四小、前原小、本町小、小金井一中、南中の計6校、東部地区は東中学校を拠点校とし、連携校を小金井三小、東小、緑小、南小、小金井二中及び緑中の計6校で実施をする。

報告は以上である。

山本教育長

いかがか。ご質問等があったらお願いします。

福元委員

今まで何回もこの話を聞いて、その必要性や意義は十分にわかった。しかし、新しい制度に移行するときには、よさはわかっているながらも戸惑いもいろいろ、関係者には出てくると思われる。しっかり準備期間をとって、十分に理解させながら実施に結びつけていければいいと思う。

山本教育長

ほかにないか。

それでは、次に、生涯学習から報告願う。チャレンジデーについて。

石原生涯  
学習課長

それでは、チャレンジデー事業の今後ということでご報告をさせていただきます。チャレンジデー事業については、ご承知のとおり平成

26年度から3年度間連続して実施をして、本年度は初勝利を挙げたところである。去る1月25日にチャレンジデーの実行委員会、こちらは市内の官公署、それから大学、学校、それから公益団体の代表の方にお集まりいただき、今後の市のチャレンジデーに関する考え方についてご理解を求めた。

その中で、私どもの考え方として、チャレンジデーは平成28年度をもって終了することとして、今後は本年度作成を手がけているスポーツ推進計画に基づき、チャレンジデーのみにとどまらず、広くスポーツ施策を推進していくことを目的に行ってまいりたいということで、特段委員の方からは反対や質疑についてはなかった。

チャレンジデーの実行委員会の前身として、平成25年に多摩地域を中心の国民体育大会が行われた際に、国体の実行委員会というのを平成23年に発足して、国体が終了した後はチャレンジデーの実行委員会、今後については、2019年のラグビーワールドカップや2020年の東京オリンピック・パラリンピックを視野に入れた新たな実行委員会で市内を挙げて機運の醸成に努めてまいりたいというふうに考えているところである。

簡単だが報告は以上である。

山本教育長

ご質問等あるか。

私から1点なんだけれども、4月1日にオリンピックの旗が来るよね。あれに対して、例えば小学生や中学生たちへの働きかけが、もし必要ならば、3月の校長会でいろいろ案内したり呼びかけたりする必要があるんだけど、生涯学習課は直接はかかわっていない。

石原生涯  
学習課長

そうである。

フラッグについては企画政策課が保管責任者になっている。したがって、我々が活用する場合も、企画政策課のほうにいろいろ許可を求めてやる形になり、まだちょっと課長のほうとかで話をしている段階だが、具体的に、じゃ、こういう形でというのは、まず第一に、ちょうど桜まつりを実施しているので、その際に何らかの仕掛けをしたいという意向はあるようだけれども、それ以外については、まだちょっと具体的になっていないということなので、3月の初めの校長会の段階ではお知らせができない状況になる。

山本教育長       ただ、春休みの最中の行事になるので、オリ・パラ教育を今、取り組んでいる最中なので、各学校にも何らかの形で案内する必要があると思う。じゃ、指導室長、これ、企画課と連絡を取り合って、遅れないように対応してほしい。

                  それでは、次、図書館の諮問について、図書館長。

菊地図書館長     それでは、昨年、10月24日に図書館協議会に諮問した小金井市の図書館のあり方について諮問するに至った経過も含めて、進捗状況等をご報告させていただく。

                  ここ数年の図書館は、主に個々の分室、図書室のサービス向上に取り組んできたところである。平成26年4月に貫井北分室がNPO法人市民の図書館・公民館こがねいによる業務委託で開館し、その評価を踏まえて、翌年の平成27年8月には東分室も同法人による委託での運営を開始した。

                  公民連携、市民協働のコンセプトのもとに、両分室とも直営館と比べても開館日、開館時間を増やすことができ、また、図書館スタッフが全員司書資格を有していることから、レファレンス等の図書館サービスもきめ細かく提供できていることから、市民の皆様には好評を得ている施設となっている。

                  また、直営館においても、坂下唯一の施設である前原町の西之台会館の開館日、開館時間を平成27年度から開館を拡大し、利用を延ばしている、そのような状況である。

                  このように、市民サービス向上に努めてきたところではあるが、その一方で本市の図書館全体の将来ビジョンとしてはお示しできるものを持っていないところから、昨年度の市議会では何よりも早急に図書館の将来像を描くことが最優先課題であるとのご決議を賜った。図書館としても、図書館サービスの指針となる小金井市立図書館運営方針を平成25年に全面改訂した折に、施設等の考え方は別途時間をかけて検討を行うとした経過もあり、本市の最上位計画である第4次小金井市基本構想後期基本計画には、市民ニーズに沿った図書館のあり方の検討が取り組むべき課題として掲げられていることから、このたび図書館のあり方について着手した次第である。

                  図書館協議会で協議いただく主な内容としては、本市の図書館に

必要な機能や施設規模、運営形態についてである。第2回目の図書館協議会を1月23日に開催して、次回は3月開催予定である。まだ協議が始まったところであり、答申は平成29年度末にいただく予定をしている。

報告は以上である。

山本教育長

来年3月ごろに答申が出るということだが、図書館についてはいろいろなご要望やお考えが委員さんたちもお持ちだろうけれども、今のところは具体的な、どこにどんなものを建てるとか、そういう話は出ていないということだね。運用とか運営とか、そういうことについて、今、答申をいただく予定だと。

この際だから、何かご要望とかご意見とかあれば何おうか。よろしいか。

では、その都度、何か報告することがあったら、この会でしていただけたらと思う。

それでは、次、都立多摩図書館のオープンについて、図書館長。

菊地図書館長

それでは、先月、1月29日に国分寺市にオープンした都立多摩図書館について、私、オープン前の内覧会に参加させていただいたので、報告をさせていただく。都立多摩図書館は、都立立川、都立青梅、都立八王子図書館を統合した形で昭和62年に立川市に開館したが、施設の老朽化と収蔵能力が限界に近づいたことにより、このたび、国分寺市に新館を建設し、移転したものである。

施設面では、コンセプトは森の中の本の森で、3階建てで1階が閲覧スペース、2階、3階が書庫となっていて、壁面や床など、施設全体が白を基調に地元の木材、多摩産材を一部に用いて、非常に明るく開放感のあるつくりになっていた。

旧館と比べると面積が約2倍の8,972平米、収蔵能力は約3倍の285万冊とのことで、今後は都立中央図書館からも資料が移管されてくると聞いている。

サービス面だが、都立多摩図書館が以前から力を入れているサービスの一つに児童青少年サービスがある。新館には児童研究のエリアや青少年エリア、特に子どもの部屋には専用カウンターがあり、子どもたちが気軽に図書館スタッフに相談できるような配慮がなされていた。大変すばらしいと感じた。

また、東京マガジンバンクでは、約1万7,000タイトルの雑誌を所蔵しているが、そのうち約6,000タイトルについては1年分のバックナンバーが配架に並べられていて、利用者の方がじかに閲覧できるようになっていた。

小金井市民の皆様には図書館ホームページや各館ポスター掲示、また、利用案内等を配付することでご案内している。オープン初日には6,500人が来館したと聞いている。JR西国分寺駅から徒歩7分という立地なので、個人貸し出しは行っていないけれども、小金井市民の方にとっても今まで以上に利用しやすい図書館になったのではと思っている。

報告は以上である。

山本教育長 委員さんの中でいらっしゃった方、まだいらっしゃっていないか。私もこれからなので、今日あたり行ってみようかな。  
それでは、次、公民館の実費徴収について。

前島公民館長 公民館の宿泊利用に伴う布団使用料及び陶芸窯電気料の実費徴収等についてご報告する。このことについては、進めさせていただくことを11月22日開催の教育委員会でご報告させていただいているが、その後の進捗状況についてご報告する。

本件に関しては、緑分館宿泊利用者説明会、みんなの会の保護者を12月に開催し、ご説明した。また、陶芸窯電気料の負担に関しては、12月中に直接利用団体へご説明した。

緑分館宿泊利用者説明会では、市報や利用実績のある団体に個別で周知したが、3人の方の出席だったので、広くご意見をいただくために、後日欠席の団体に直接お電話でご意見を伺った。布団を借り上げた場合の実費徴収そのものに反対するご意見はなかった。また、陶芸窯利用団体に個別にご説明したが、その際に、各利用団体には4月以降の実費徴収についてはご了承を得ているところである。

したがって、布団を借り上げた場合の実費及び電気式陶芸窯の使用料に伴う電気料の実費については、平成29年4月からのご負担をいただくよう例規等の整備を進めてまいりたいと思っている。具体的には3月の教育委員会に公民館条例規則の一部を改正する規則を上程する予定である。

なお、公民館事業のみんなの会での布団を借り上げた場合の実費を負担していただくことについては、保護者会を開催し、実費徴収についての反対はなかったが、時代の流れから布団代を実費徴収だけならやむを得ないが、今後、この実費徴収をきっかけに活動に制限がでてくるのではないかといった懸念があるというご意見をいただいている。また、出席者5人ということから、保護者の方全員へアンケート調査を実施している。アンケートは発送数50通のうち38通の返信があり、うち実費徴収は困るという回答の方が1人いらっしまった。みんなの会については、8月にサマーキャンプで布団を利用するので、6月をめどに保護者をはじめ、講師の方ともお話しする時間を設け、引き続きご理解を得られるよう努めさせていただく所存である。

雑駁だが報告は以上である。

山本教育長 大変丁寧に対応しているところだが、ご質問等あるか。よろしいか。

それでは、最後に、今後の日程について、庶務係長、お願いします。

平野庶務係長 それでは、教育委員会の今後の日程について報告する。

中学校卒業式が、3月17日、金曜日、各学校でとり行われる。全委員のご出席をお願いします。

続いて、小学校卒業式が、3月24日、金曜日、各学校でとり行われる。全委員のご出席をお願いします。

続いて、第3回教育委員会定例会が、3月28日、火曜日、午後1時30分から801会議室で開催される。全委員のご出席をお願いします。

続いて、平成28年度第2回総合教育会議が、3月28日、火曜日、午後4時から801会議室で開催される。全委員のご出席をお願いします。

続いて、小学校入学式が、4月6日、木曜日、各学校でとり行われる。全委員のご出席をお願いします。

続いて、中学校入学式が、4月7日、金曜日、各学校でとり行われる。全委員のご出席をお願いします。

続いて、平成29年度教育施策連絡協議会が、4月11日、火曜日、午後、中野サンプラザで開催される。全委員のご出席をお願いします。

する。

続いて、第4回教育委員会定例会が、4月13日、木曜日、午後1時30分から801会議室で開催される。全委員のご出席をお願いします。

続いて、東京都市町村教育委員会連合会第1回理事会が、4月24日、月曜日、午後2時から東京自治会館大会議室で開催される。鮎川委員のご出席をお願いします。

続いて、第5回教育委員会定例会が、5月9日、火曜日、午後1時30分から801会議室で開催される。全委員のご出席をお願いします。

今後の日程は以上となる。

山本教育長

ご質問等あるか。

それでは、以上で報告事項を終了する。

これから、日程第3を議題とするところだが、本件は人事に関する議案である。本件は小金井市教育委員会会議規則第10条第1項に規定する事件に該当するため、非公開の会議が相当と判断するが、委員の皆様、異議はないか。

(委員一同異議なしの声)

山本教育長

全員異議なしと認め、秘密会を開会する。

準備のため、休憩する。

傍聴人の方におかれては、席を外していただくことになるので、よろしくをお願いします。

休憩 午後2時29分

再開 午後2時32分

山本教育長

再開する。

以上で本日の日程は全て終了した。これをもって平成29年第2回教育委員会定例会を閉会する。

閉会 午後2時32分